

製品名: 20S プロテアソーム α 3 (リン酸化 Ser250) ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab04180

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、 -20°C で保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	32kDa

抗原情報

遺伝子名	PSMA3
別名	PSMA3; HC8; PSC8; Proteasome subunit alpha type-3; Macropain subunit C8; Multicatalytic endopeptidase complex subunit C8; Proteasome component C8
遺伝子 ID	5684.0
SwissProt ID	P25788
免疫原	抗血清は、Ser250 のリン酸化部位周辺のヒトプロテアソーム α 3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 206-255

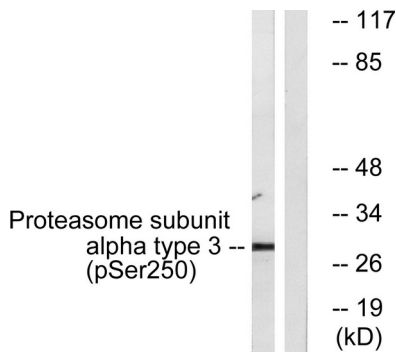
背景

プロテアソームは、高度に秩序だった環状の 20S コア構造を持つ多触媒性プロテアーゼ複合体です。コア構造は、28 個の異なるサブユニットからなる 4 つのリングで構成されています。2 つのリングは 7 個の α サブユニットから構成され、残りの 2 つのリングは 7 個の β サブユニットから構成されています。プロテアソームは真核細胞全体に高濃度で分布し、リソソームを介さない経路で ATP/ユビキチン依存的にペプチドを切断します。改変型プロテアソームである免疫プロテアソームの重要な機能は、クラス I MHC ペプチドの処理です。この遺伝子は、ペプチダーゼ T1A ファミリーのメンバーである 20S コア α サブユニットをコードしています。異なるアイソフォームをコードする 2 つの代替転写産物が同定されています。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: 非常に広い特異性を持つペプチド結合の切断。機能: プロテアソームは、中性または弱塩基性 pH において、脱離基に隣接する Arg、Phe、Tyr、Leu、および Glu を持つペプチドを切断する能力を特徴とする多触媒プロテアーゼ複合体です。プロテアソームは ATP 依存性タンパク質分解活性を有します。類似性: ペプチダーゼ T1A ファミリーに属します。サブユニット: 26S プロテアソームは、20S プロテアソームコアと 2 つの 19S 調節サブユニットで構成されています。20S プロテアソームコアは、4 つの積み重ねられたリング状に配置された 28 のサブユニットで構成され、樽型の構造を形成しています。2 つの末端リングはそれぞれ 7 つの α サブユニットから構成され、2 つの中央リングはそれぞれ 7 つの β サブユニットから構成される。サブユニット: 26S プロテアソームは、20S プロテアソームコアと 2 つの 19S 調節サブユニットから構成される。20S プロテアソームコアは 28 個のサブユニットから構成され、4 つのリングが積み重ねられ、樽型の構造を形成する。2 つの末端リングはそれぞれ 7 つの α サブユニットから構成され、2 つの中央リングはそれぞれ 7 つの β サブユニットから構成される。活性部位を含む触媒室は、樽の内側に位置する。、

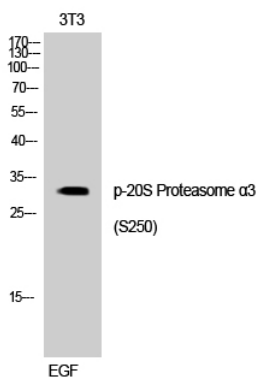
研究分野

プロテアソーム;

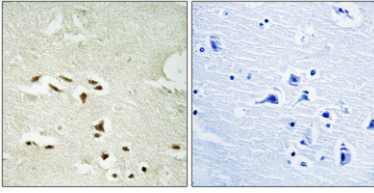
画像データ



EGF 200 ng/ml 30 μ l で処理した NIH/3T3 細胞のライセートを、プロテアソーム $\alpha 3$ (リン酸化 Ser250) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 20S プロテアソーム $\alpha 3$ (S250) ポリクローナル抗体を用いた 3T3 細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。